

zoo もりおか

第4号 1993



盛岡市動物公園

目次



今回のテーマは「動物たちから学べること」で～す

表紙説明 (アライグマ)	2
体の特徴からいろいろ考えてみよう	
①シマのひみつ — シマウマ	3
②なが～い鼻 — ゾウ	4.5
③あべこべな鳥 — フラミンゴ	6
しぐさをさぐる	
①すわるキリン	7
②ドロ浴びあれこれ	8
③ゾウさんのごきげんは?	9
紹介します!	9
ニホンザルの社会を考えてみよう	10.11
卵のはなし	12.13
どうぶつこうえんウラばなし	14
動物公園友の会コーナー	15

表紙写真説明

アライグマ (食肉目アライグマ科)

北米大陸の森林地帯に生息する動物ですが、愛きょうのある姿と、TVアニメの影響で、日本でもペットとして多く飼われています。

その結果、捨てアライグマが出て、それが野生化してしまっている、という話も聞きます。

さて、アライグマは「洗いグマ」というように、食べ物を洗ってから食べる、というイメージがありますが、それはまちがいです。

たしかに、野生のアライグマは水辺にすむことが多く、水の中のザリガニなどをつかまえている姿は、まるで餌を洗っているように見えます。

でも、実際、飼っているアライグマを見ると、水の近くに餌を置いても、わざわざ洗うことはありません。

水の中に入っている餌も、前足でさわって確かめるとすぐに食べてしまいます。実は、アライグマの前足には、目や鼻よりも神経がたくさん集まっているので、見たり嗅いだりするよりも、まず、さわって確かめているのです。

飼育係にまわりついてくる時も、鼻でにおいを嗅ぎながら、前足でベタベタとさわってきます。これも確認していることになるのでしょうか。(かみつかることはないので、餌とは思われていない様です。)



シマは何のため？

シマウマは、その特徴であるシマを除くと、体の形は、ウマというよりもロバに似ています。顔つきや、尾の形などをよく見て下さい。いかがですか？

では、そのシマはなぜあるのでしょうか。シマがあると、何か有利なのでしょう。逆に、シマがないとこまるのでしょうか。

少し考えてみましょう。

例えば、シマは保護色の役割を持つという説があります。昼間は目立つシマですが、夜明けや夕暮れ、月の照る夜など、シマウマにとってライオンを見つけにくい、つまりおそわれやすい時には、シマのおかげでシマウマの姿も見えにくくなる、というのです。

これは、本当でしょうか？

R.キプリングは、彼の本の中でシマウマ、キリン、ヒョウを登場させて、面白いシマのお話をしています。

彼らは初め、他の動物たちと一緒に高原にすんでいて、「もっぱら全体が砂の色に近いような茶色」をしていたそうです。

しかし、シマウマとキリンは、ヒョウをさけるために森へすみかを変えて行きました。

すると、木の葉がおとすまだらな影に合わせて体にブチやシマができました。

ヒョウも、彼らの後を追って森へ入ったのですが、彼らをとらえるために自分も目立たぬようにブチをつけていった、というのです。

体の模様は化石には残りませんし、カメラもないむかしのお話ですから、想像しかできません。まあ、一つのおとぎ話のようなものですね。

もし、保護色の役割を持つというのを確かめるならば、柵の中にシマウマ30頭、ロバ30頭とライオン1頭を放して、数か月後に残った数をくらべてみれば、シマが役に立っているかどうか確かめられるのかもしれませんが、でも、そんなことはかわいそうできません。ライオンに聞くわけにもいきませんから、本当のところはわからない、ということです。

ほかにも、シマは体温調節に役立つという説、有害なハエをよせ付け

ためという説など、実にたくさんの説がありますが、どれもまだ「これだ！」という説にはなっていません。

いずれにせよ、それまでシマがなかったシマウマが、ある時、ぼんやりシマができた、あるいはさらにシマがはっきりしたシマウマが、シマのないシマウマよりも子どもをたくさん残すことができたために、今、私たちが目にしているシマウマになったのでしょうか。

白シマ？ 黒シマ？

ところで、シマウマのシマは、白地に黒いシマなののでしょうか？ それとも黒地に白いシマなののでしょうか？

動物公園のチャップマンシマウマのおなかの下や足には、白地に黒いシマが入っているように見えます。(写真を見て下さい。)

でも、発生学者のパートはこう言っています。

シマの発生は、黒地の色素(メラニン色素)が現われるか、現われないかによる、ということです。

もともとは、からだ全体に黒い色が現われるはずなのですが、一部その黒が現われない、つまり色のない白い部分ができると、そこが白いブチや白いシマになるのです。

ですから、シマウマも、もとは黒一色だったところに白いシマができた、ということですね。



なが〜い鼻 —ゾウ—

—体の特徴とくちょうからいろいろ考えてみよう②

便利な鼻

ゾウと言えば、あの長〜い鼻。では、どうして長いんでしょう。

他の動物で、ゾウの様に長い鼻を持っているものはいません。どうして、ゾウだけが長い鼻を持っているのでしょうか。

それには、まず、長い鼻が何の役に立っているのか考えてみるのがよいでしょう。

もともと、鼻は匂いにおいを嗅ぐためのものですね。実際、ゾウの鼻の匂いを嗅ぐ能力はすぐれています。でも、他にもいろいろな役に立っているのです。

例えば、高い所に生えている木の葉をとったり、大きな木に鼻を巻き付けて倒してしまうかと思えば、地面に落ちている小さな木の実を拾うこともできます。まるで、人間の手の役目をしている様ですね。

さらに、鼻に水を吸い込んでおいて、口へ運んで飲んだり、暑い時は、体に水をかけたりと、いろいろ便利に使っています。

さて、もし、この鼻が長くなかったら、ゾウはどうなるのでしょうか。これはもう、ゾウはこまったゾーになります。まず、食べ物は、口から下の高さにある葉や草しか食べられません。しかも、下の草を食べるためには、腹ばいにならなければなりません。

水を飲むにしても、水の中につかって飲むか、滝の下で口を開けて飲むなどしなければなりません。

つまり、体の大きいゾウにとって、長い鼻はどうしても必要なものなのです。



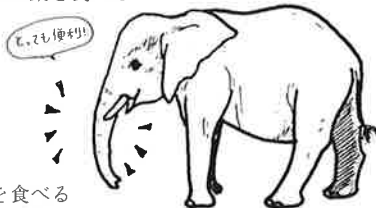
図-1



高い所の木の葉を食べる

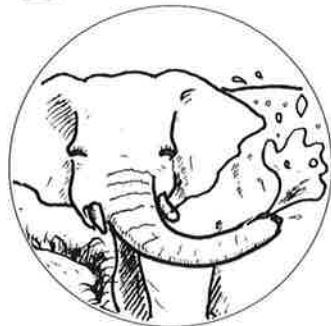
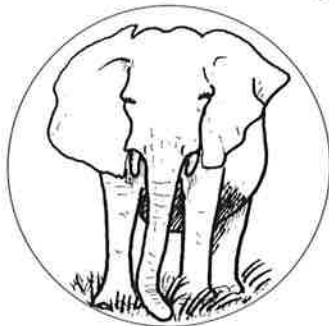


水を飲む



地上の草を食べる

水浴びをする



ゾウの鼻がのびたわけ

ゾウは、う～んと昔から鼻が長かったのでしょうか？

ゾウの祖先と聞くと、マンモスを思い出しますね。マンモスも、長い鼻をしていました。でも、マンモスよりもっと前にも、ゾウの祖先はいたのです。

図-2を見て下さい。これは、ゾウの祖先の仲間でもエリテリウムといます。背の高さは、50～70cm、足が短く、鼻もあまり長くありません。背が低いので、鼻が短くても地面の草を食べたりするのに不自由はなかったでしょう。

図-3は、同じくゾウの祖先の仲間でも、パレオマストドンといます。

背の高さは、1～2m。でもエリテリウムよりも、足も鼻も少し長いですね。

さて、動物たちが生き残るためには、何か特徴が必要です。例えば、体は小さくても、すごくすばしくて、敵につかまらないとか、逆に、体を大きくして、襲おうとする動物の種類を少なくしているなどです。他にも、子どものことはあまりかまわなくても、数はたくさん生むとか、少しだけ生んで大切に育てるなどもそうですね。

こうしてみると、でもエリテリウムやパレオマストドンは、もう生き残っていません。

現在、残っているゾウは、より大きな体の特徴として生き残ってきました。より大きな体には、それに見合った長い鼻が必要だったのです。

図-2

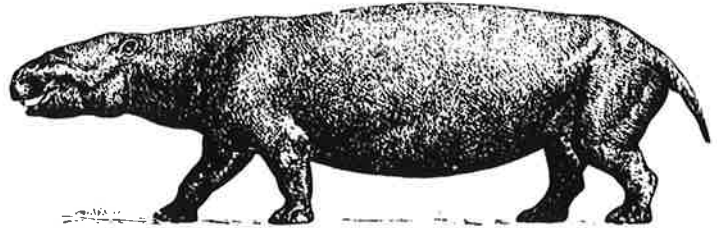
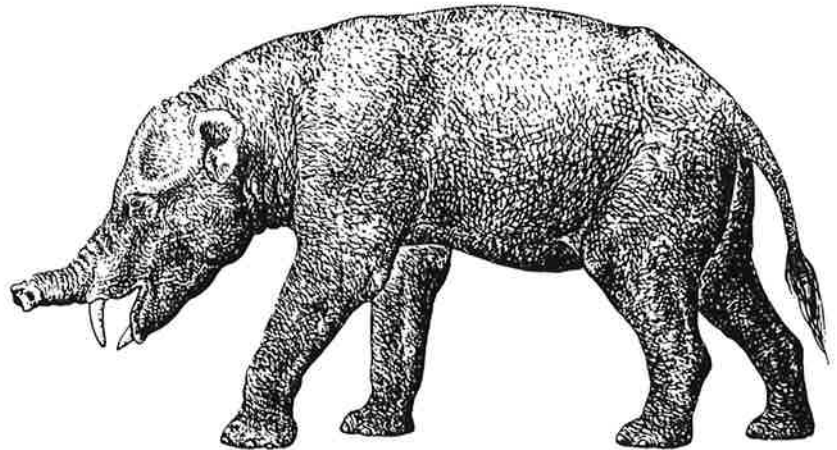


図-3



(参考文献 古脊椎動物図鑑、世界の動物 | 分類と飼育より)

あべこべな鳥は？

——フラミンゴ——

—体の特徴からいろいろ考えてみよう③—

さかさまのくちばし

フラミンゴは、首や足が長く、くちばしが下の方へ曲がった、とてもユニークな鳥です。

塩分を多く含む浅い湖などが、彼らの生息場所です。そこに発生する大量のプランクトンという小さな生物をじょうずに食べて生きているのです。といっても、一つ一つプランクトンをつまんで食べているわけではありません。くちばしと餌のとり方がとてもうまくできているおかげで、他の動物がすみにくい場所でくらしていけるのです。

彼らのくちばしの縁には、細かい歯の様なギザギザがあります。まず、プランクトンがただよう水をくちばしに入れます。そして、舌を1秒間に最高4回という速さで動かして、水をくちばしの外に出します。プランクトンは、ギザギザにひっかかって残りますから、それを食べればよいわけです。

理科の実験で「ろ過」をやった事があると思いますが、フラミンゴは、これをくちばしの中でやっているのですね。これが、フラミンゴの特徴の一つです。

もう一つの大きな特徴は、餌のとり方です。彼らは、逆立ち採餌、つまり逆立ちをして餌をとるのです。逆立ちといっても、翼で体をささえて足は上という事ではありません。写真のように、頭を逆さまにして餌をとることをいいます。

では、なぜ、このようなとり方ができるのでしょうか？それは、フラミンゴのくちばしにひみつがあります。

大部分の鳥では、小さな下くちばしが、大きな上くちばしに対して動きます。私たち人間も、頭の骨と一体化した上アゴに対して、下アゴが動いていきますね。

それとは全く逆に、小さくて平らな上くちばしと、大きくてスプーン型になった下くちばしを、フラミンゴは持っています。そして、餌を食べる時は、やはり、他の鳥とは逆に、下くちばしに対して上くちばしを動かしているのです。そればかりか、上下のくちばしを別々に動かすこともできます。

また、くちばしは下の方へ曲がっていますから、逆立ちで餌を食べるのに都合がよいのです。

それでは、くちばしが普通のくちばしとは逆の動きをするようになったために、逆立ち採餌をするようになったのでしょうか？それとも、逆立ちが先で、くちばしが後から変わっていったのでしょうか？

S. J. グールドは、『フラミンゴの微笑』という本の中で、フラミンゴは逆立ちを先に行なった、と言っています。

フラミンゴは、まず「ろ過」できるくちばしを持っていました。それがないと、プランクトンを餌にするのは大変ですからね。

そのくちばしを持ったフラミンゴは、あまり他の生物がすんでいない浅い塩の湖といういい餌場を見つけたわけです。

彼らがそこに来た時のくちばしは、もしかしたら逆ではなく、他の鳥と同じくみのくちばしだったのでしょ。

やがて、彼らは逆立ち採餌という行動をはじめました。もちろん、普通のくちばしでは餌はとりにくかったでしょう。そのうちに、偶然、逆のくちばしを持ったフラミンゴが生まれました。彼のくちばしは、逆立ちをして餌をとるのに都合がよく、餌を他のフラミンゴよりたくさん食べることができ、その結果、子どもをたくさん残すことができました。こうして、逆のくちばしを持つという特徴が、フラミンゴ中へ広がった、ということです。

こうしてみると、フラミンゴは、上下逆さまのくちばしを持ち、逆立ちして餌を食べる「あべこべな鳥」という感じがしませんか？



逆立ちで餌を食べています。

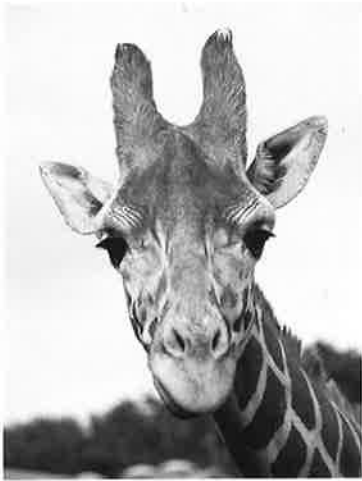
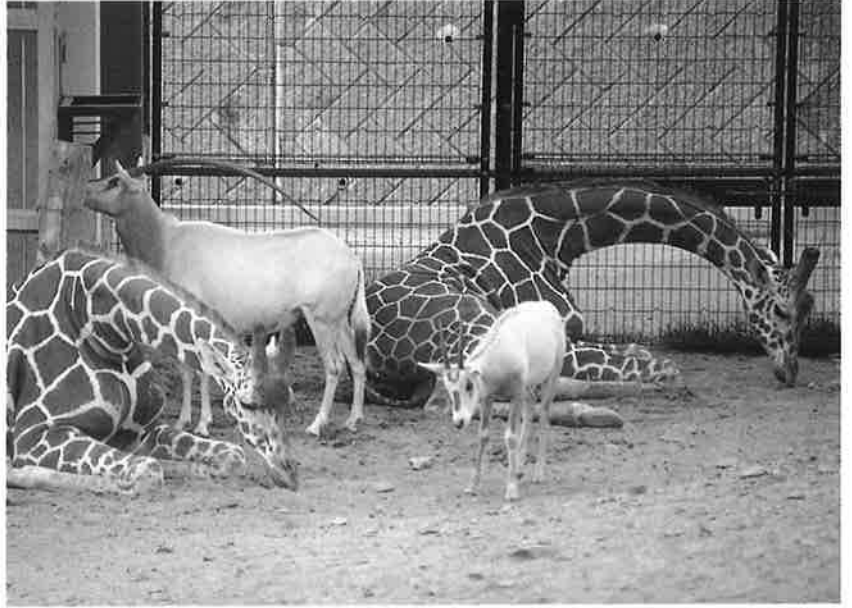
すわるキリン

—しぐさをさぐる①—

動物公園の中の動物たちは、実に様々なしぐさを私たちにを見せてくれます。

そのしぐさには、どの様な意味があるのでしょうか。

また、どうして、そのようなしぐさをするのでしょうか。



みなさんは、野生のキリンを見たことがありますか？ 実際（じっさい）にアフリカのサバンナに行ったことがなくても、テレビなどで目にしたことはあるのではないのでしょうか。

その野生のキリンたちが、木の葉を食べたり、走ったりしている姿はよく見ますが、この写真の様にすわっている姿を見る機会は少ないと思います。

キリンは、首や足がとても長いので、水を飲む時は前足を横に広げなくてはなりません。さらに、すわる時は長い足を折りたたまなくてはならないし、立ち上がるのもひと苦労です。

ですから、ライオンやハイエナなどの外敵（がいてき）におそわれる危険と隣合わせで生きている野生のキリンは、めったにすわることはありません。眠る時も立ったままです。

一方、動物公園という環境（かんきょう）は、動物にとって野生と大きくちがってきます。すわることのめったにないキリンも、隣にライオンがいようと、こちらにこないことを知っていて、のんびりすわっているのです。

この様に、野生では見られないのに、動物公園という環境で目にする事ができるという行動もあります。

例えば、オオツノヒツジは、オス同士が大きな角をぶつけ合って自分の力を試しています。でも、動物公園にはオスが1頭しかいませんから、植えられた木を相手に角をぶつけています。そのせいで木が折れてしまうこともあります。



ドロ浴びあれこれ

— しぐさをさぐる ② —

シロサイやイノシシは、ドロ浴びが大好きです。ちょっと見た感じでは汚ないかもしれませんが、実は、このドロ浴びには、いくつかの目的があります。

まず、夏など暑いところに見られるドロ浴びには、体を冷やすという目的のほかに、体についたダニなどの寄生虫を落とすため、という目的もあります。

ドロ浴びの後、ドロが乾いてくると、木や岩に体をこすり付けて、ドロごと寄生虫を落としてしまうのです。

よく動物は、かゆくても手や足や口がとどかない場合に、こういうことをします。ドロ浴び以外では、水浴びや砂浴びもそうですね。

ほかにも、オスのシカは、春や秋になると自分の尿をドロにまぜて、それを体にぬりつけたりします。

ドロにまみれているだけの様に思えるドロ浴びにも、深いわけがあったのですね。

この様に、野生で見られる行動が、そのまま動物公園でも見られる場合があります。



あ～気持ちいい!



ドロ浴び大好き



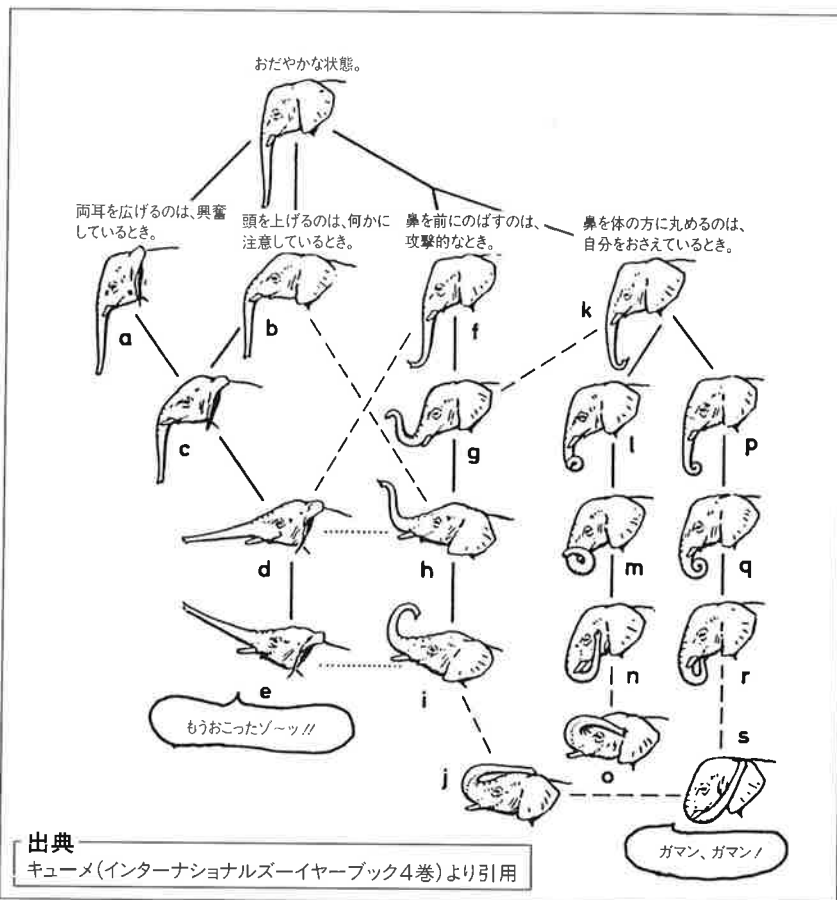
ゾウのしぐさ

— しぐさをさぐる ③ —

動物の中でも、特に頭の良い動物であるゾウは、きょうな鼻と大きな耳で、自分の気持ちを相手に伝えることができます。

図を見て下さい。これは、鼻と耳の動きで表わされたゾウの気持ちをまとめたものです。

この図を参考に、ゾウのしぐさをじっくり観察すれば、ゾウの気持ちを少しは理解できるかもしれませんね。



耳、鼻、頭1つ1つのうごきが、ゾウの気持ちを表わしているのですが、実際にはそれぞれが組み合わされているのです。

ゾウだって、複雑な気持ちがあるのですからね。

この図の下の方にいくほど、それぞれの気持ちが強くなります。たとえば、dやeはすっかりおこったとき、逆にsはじっとガマンをしているときなのです。

まだまだ、他にもおもしろい行動はありますが、そちらは、またいつかお話したいと思います。



紹介します！

まさ みつ
櫻 正 光

昭和38年1月5日 盛岡市生まれ

飼育係になって5年になるが、いまだに人にも動物にも怒ったことがない。「仏の櫻」と呼ばれ、人望も厚い。

担当のキリンの繁殖行動に影響されてか、昨年12月にかわいらしいお嫁さんをもらったばかり。

その結婚までのすばやい行動に、実はムツリ○○○だったのかと、一同納得。(K氏談)

ニホンザルの社会を考えてみよう



動物公園にやってきて、まず目に入るのがサル山。昭和63年に大阪から群れごと18頭でやってきたニホンザルも、毎年子が生まれ、今では35頭になっています。

いろいろな動きをしてくれるし、時にはその動きが私達人間どうしの行動とかさなってみえることがあり、人気があります。おかあさんザルのおなかにぶらさがっていたり、まわりでチョロチョロしている子ザルをじっと目でおい、い

つまでもサル山の前からはなれようとしな、小さなお客さんをよく目にします。

たくさんいる動物のなかで、もっともお客さんの観察時間かんさつが長い動物を調べたら、だんぜん1番になるのがニホンザルでしょう。(次はアライグマ、プレーリードッグなどでしょうか)。

ニホンザルをじっと見ていることによってすこしふみこむことができる、ニホンザルの社会(個体どうしのつながり)についてふれてみましょう。

それまでのんびりとすわっていたのに、他のサルが近づいてきたらさっと場所をゆずった。どうして？

ニホンザルの社会には順位じゆんいというものがあります。それは個体(サル1頭1頭のこと)どうしの間に強い、弱い関係があるということです。一番かんたんな調べかたとしては、2頭のサルのちょうどまん中まんちゆうに餌をおくと、いつもきまってかたほうのサルがとりにくる。もう1頭のサルはどうしているかという、そしらぬふりをしており、顔にはださないにしても、まあ、がまんしているのか、餌をとりにこないのです。何回やってもこの関係はかわらず(餌をとりにくるほうがおなかいっぱいになったら別です。)餌をとりにくるほうが強いのこととなります。この強い弱い関係はおとなのオスどうしで特にはっきりしているようです。

ただ、順位といっても自分は群れの中で何番目になっているのか、3番目なのか、8番目なのかといったことはわかっていないようです。近くにきた相手が自分より強いのでさからわずにさっとよけたほうがよいとか、今日はなんかむしゃくしゃするな、おっ、ちょうどいい相手がきたぞ、と自分より弱い相手にちょっかいをかける、といったようなことが、結局外げいからみると1列いれつに順番じゆんぱんになっているようにみえる、ということのようです。

ニホンザルの社会というのは、規則正しい順位関係からなりたっているというイメージがありますが、見かたをかえれば、もともとはもうすこしいいかげんな、あまりちゃんとはしていないものなのかもしれません。

さあ、1頭のサルを決めて(できればおとなのオスがいいでしょう。)、すこし長めに時間をとり、おいつづけてみましょう。他のサルの前をいばって通りすぎましたか? それとも、わざわざ遠まわりしてよけていきましたか? 他のサルにおいかけられることはありませんでしたか?



ボスザルのユンタ君

ニホンザルの群れにはボスがいるって本当? どれがボスザルなの?

動物公園では、それは“ユンタ”という名前のサルです。他のサルよりひとまわり大きい、りっぱな体格たいかくをしており、動作もどうどうとしていますから、きっとあれだとみなさんにもすぐわかんと思います。

ただ、その役割はボス、あるいはリーダーといった言葉から想像される



ものとは、実際にはかなりちがっているようです。ニホンザルの社会に関する日本での研究はとてすすんでいて、野外での観察結果からわかっていることですが、ボスが自分の役割をよく知っていて、しっかりそれをはたす、いってみれば群れのみんなから尊敬されているということとはちょっとちがうようなのです。

群れの中にあらそいがあれば、さっとそこにとんでいって様子をみる、そこまではユンタもすることなのですが、そこで正義の味方になって、あらそいのもととなった悪い(?)サルをこらしめる、とはかぎらないのです。野外のサルにおいても、ぎゃくに強いほうの味方になり、いっしょになって弱いほうをおいかけまわすことがあります。ちょっとボスというイメージとはちがいますね。

また、野外において群れが移動するとき、一番前になって群れの行き先を決めるのもボスではないようです。ボスはふつう群れの中心にいて、その近くにはおとなのメスやそのこどもがいる、そしてそのまわりをあまり強くないオスや若いオスがとりかこむ、動物公園ではあまりはっきりとは見られませんが、ニホンザルの群れのつくりはだいたいこのようになっているようです。

群れがたとえば別の餌場に移動しようとするとき、はじめに動くのは群れのまわりにいる若いオスたちだそうです。何頭か動きだすと、中心にいる何頭かもそれについて行き、またボスもそれについていく、といった様子がよく見られるそうです。

そうすると、ボスはリーダーと呼ぶのもまたちょっとちがっているように思えます。本当はとくにきまった役割をもっていないのかもしれませんが、先にしたように、1頭1頭の強い弱い関係のなかで、もっとも強いサル、つまり群れの中で自分にむかっていばってくるサルがいらないというサルが、みなさんの思っているボス、またはリーダーということになります。

最近、ニホンザルの研究をしている人たちは、ボス、またはリーダーということばを使わなくなってきました。かわりにアルファ・メールと呼んでいます。アルファとはギリシャ文字の一番最初(英語ならA B C…のA)で、一番のという意味をもち、メールとはオス(メスはフィメール)のことです。

こうしてみると、ニホンザルの社会というのは、これまで思われていたように、ボスを中心としてしっかりきまったしくみをもつものというのとは、ちがっているようです。

新しい見方をしなければいけない理由として、おもに二つのことがいえます。ひとつは、ニホンザルが群れを作っているのがあたりまえで、1頭1頭のサルについてより、群れのしくみを調べていたからです。野外では、オスはある程度大きくなると群れをはなれますが、メスはどんなに弱い個体でも生まれた群れにとどまります。社会のしくみがそうなのだときめつけて、じっとがまんしているのだと考えるのではなく、それでもそのサルにとって、群れをはなれるよりも群れの中にいるほうが良いわけがあるはずなのです。

もうひとつは、飼育されている群れや、野外でもきまった場所、きまった時間などに餌をもらっている群れでは、かぎられた場所にふつうより多くの個体が集まることになるので、あんな場面が多くなるということです。野外での群れでは、もっとゆったりしており、個体どうしで強い弱いにかかわりなくえんりょしあうようなきまりがあることもわかってきています。

最後はすこしむずかしくなりましたが、もうすこし自由な考えで、サル1頭ずつをみなおしてみましょ。たしかにそこにはサル1頭ずつのつながりからできている社会があります。

たまにあらそいはあっても、けっこうゆったり、のんびりくらしているように、私にはみえます。



卵のなし

世界一の卵

動物公園には、「世界一」という動物がいます。そう、それはダチョウです。鳥の中で、最も大きい体を持ち、そして、最も大きい卵を産みます。

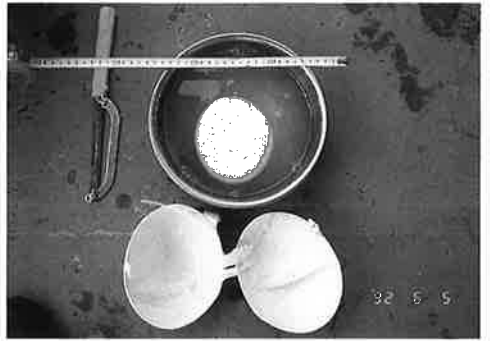
どんな卵かといいますと、からの色は白。高さは10～18cm。直径は10～15cm。重さは1.5kgぐらい。重さで比べると、ニワトリの卵25コ分ぐらいになります。

かたゆで卵を作ろうと思ったら、2時間ぐらいかかるそうです。一度、挑戦してみたいですね。

さて、この写真は、ダチョウの卵をのこぎりで割ったところです。

大きい黄味ですね。でも、この大きな卵から生まれるヒナは1羽だけです。

卵は、1つの生命を大切に育てるカプセルということになりますね。



体の割に大きい卵世界一



— キウィ —

★体の割に大きな卵を産む鳥の世界一は、ニュージーランドにすむ鳥・キウィーです。メスの体重は、2kgぐらいなのに、卵は400～500gもあり、体重の4分の1ぐらいもあるのです。

卵を抱いてあたためている時も、大きいので、親鳥の体にふれている部分と、そうでない部分では10℃以上の温度差があるそうです。

いちばん小さな卵世界一



— ハチドリ仲間 —

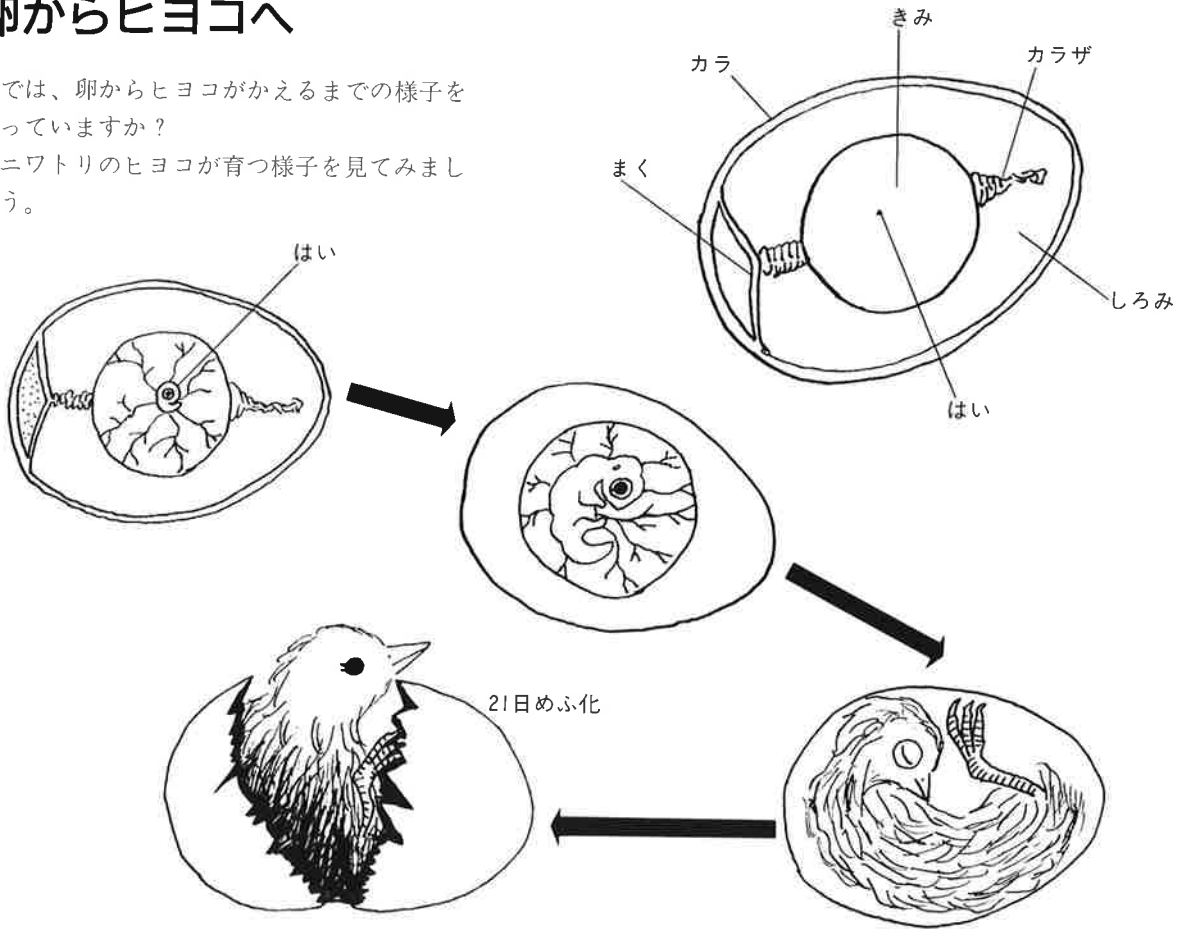
★鳥の中で、一番小さい卵を産むのは、ハチドリ仲間です。卵の大きさは、1cmぐらい。重さも0.35gです。

でも、親鳥の体重も軽いですから、体重に対する卵の重さの割合は、5分の1ぐらいになるそうです。ちなみに、ニワトリだと40分の1ぐらいです。

卵からヒヨコへ

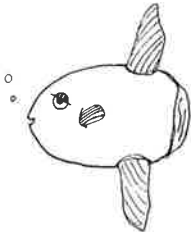
では、卵からヒヨコがかえるまでの様子を
知っていますか？

ニワトリのヒヨコが育つ様子を見てみま
しょう。



つまり、ヒヨコになるのは胚^{はい}だけ。私たちが、栄養^{えいよう}たっぷりの卵をいただくのは、胚^{はい}が育つために用意されていた栄養分^{ちようぶん}を頂^{いただき}だしている、というわけだったのです。

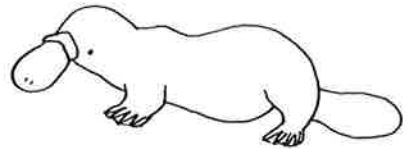
いちばん多く卵を産む魚



— マンボウ —

★魚の中で、1回の産卵数^{さんらんすう}世界一はマンボウです。その数何と3億コ。でも、大人のマンボウになるのは、ほんのわずかだそうです。

ほにゅうるい 哺乳類なのに卵を産む!?



— カモノハシ —

★オーストラリアにすむカモノハシは、哺乳類^{ほにゅうるい}なのに卵を産みます。
やわらかいからにつつまれた卵を、ふつう2コ産み、10日でふ化します。その子は、巣穴^{すけ}の中でおかあさんのおなか^{なか}からしみ出^{しみだ}してくる乳^{ちち}をなめて育ちます。

どうぶつこうえんウラバナし

さかだ 逆立ちサル 現わる！



いろいろ芸達者なサルたちが最近が多いですね。実は、動物公園にもついに芸をするサルが登場しました。

と言っても、こちらのサルの場合は訓練を受けたわけではなく、たまたまおぼえた逆立ちなんですけどね。

では、どの様に逆立ちをおぼえたのでしょうか。

夕方になると、サル山の下の方に餌がまかれます。餌は早い者勝ちですから、みんな大急ぎでサル山をかけおります。ところが、サル山の斜面はけっこう急になっていますから、あわてると自然に後足が浮いてしまうのです。

そしてある日、このサルは前足だけで坂をおりることをおぼえてしまいました。その後、この逆立ちがすっかり気に入ったのか、このサルはよく逆立ちで歩き回っているそうです。

そのうち、サル山のサルがみんな逆立ちをするようになるかもしれませんね？

ブックくんは わしき 和式スタイルが お好き？



シロオリックスを知っていますか？

体が白と茶色で、長い角が特徴のウシの仲間の動物です。アフリカ園でキリンやシマウマといっしょにいます。

そのシロオリックスたちの朝は、部屋から出るとまずウンチをすることからはじまります。メスのハーキュリーとアニーは歩きながらポロポロとウンチをばらまきます。ところが、オスのブックくんの場合は、ちょっとちがうのです。まず、前足で地面を軽く掘ります。そして、OKと思うとおもむろに後足をすこし開いて、腰をグッと下げ、まるで和式トイレの様なかっこうでウンチをします。これは、オスとメスのちがいかと思っていましたが、ブックの息子はメスと同じようにウンチをします。きっと、「しゃがめばしっかりきばることができる！」とブックくんは発見したのかもしれないね。

みなさんも、一生懸命ウンチをしているブックくんの姿を見かけたら、「フンバレよ〜！」と、一声かけてやって下さい。

ウサギのだっこ は大にぎわい



ウサギと直接ふれあえる「だっこコーナー」は、今日も大にぎわい。人もいろいろなら、そのふれあいの仕方もいろいろです。

ちょっとのぞいてみましょうか。

○指先でちょっとさわってみる子

一見たことないから、ちょっと怖いけど……何だろう？（次は、なでなでに挑戦してね）

○自分と同じくらいのおおきなウサギを、得意そうにだっこしている小さな女の子

一お姉ちゃんだっただっこしているんだもの。あたしも負けたい！（よし、がんばれ！）

○ウサギをダンスさせちゃう子

一かわいすぎて、おもちゃにしたいくなっちゃうんだ。変かなあ？（わかる、わかる）

○いつの間にか、自分がだっこしてしまったお母さん

一もう、見ちゃいられないワ、でも、実はさわってみたかったの。（いつでもどうぞ！）

○そして、ウサギをひざに乗せている飼育係

一寒い日はこれが一番！ う〜あたたか〜い！

動物公園友の会も、今年で3年目。例会を通していろいろな活動を行いました。

4/19 第1回例会 オリエンテーション

昨年からの会員の方と、新しく入会した方の顔合わせでした。

5/24 第2回例会

「みなおしてみよう、日本の動物」ということで映画を見たり、環境と動物について考えてみました。

6/7 友の会主催オリエンテーリング

園内にコースを作り、一般の入園者の方に参加してもらいました。会員の方は、チェックポイントでヒントを渡したり、スタンプをついたり、大活躍でした。



8/9 友の会親子サマースクール

毎年、一般の小・中学生を対象に行っている一日飼育体験サマースクール。実は私もやってみたい、と思っているお父さん、お母さんも多いはずと思い、今年度、友の会の方に初めて体験していただきました。あいにくの雨でしたが、楽しんでいただきました。

9/23 第3回例会

ネイチャーゲームという、自然と触れ合う目的の



ゲームを行いました。「木の鼓動」といって、聴診器で木の幹の中の音を聞いたり、「わたしの木」といって、目かくしをして木にさわってから、その木を探して

当てるゲームなどです。

11/3 動物公園まつり

友の会コーナーで、「おめんをつくろう」、「えをかこう」、「どうぶつかみしばいをつくろう」という催しものを行いました。

2/7 第4回例会

ゾウのはなしというテーマで、ビデオを見てからゾウの生態や体の特徴を勉強しました。

3/7 第5回例会 今年度の反省会

今後皆さんに、もっと楽しんでもらえるよう、がんばりたいと思います。

それでは、会員お二人の作文を紹介します。

「友の会に入ってわかったこと」



長谷川 千 絵

わたしが、友の会に入ってわかったことは、しいく係の人が、どんなどうぶつでも、一生けんめいお世話して、かわいがっているということです。どんな大変な仕事も、いやな顔ひとつしないで、こまかいことにも、注意してあげられるのは、動物が好きだからなんだと思います。そして、生命の大切さがわかって責任をもって、仕事をしてるからだと思います。そんなえらいしいく係さんもいるけれど、この世の中には、ひどい人間もいます。動物公園の門の前に、イヌやトリを捨てていくのです。動物は、ゴミじゃない！

私なら、心やさしい人間になりたい。

しいく係希ぼうの私ですが、ドジばかりやっているからムリかな？

でも、なりたくないなあ。



浦 山 裕 美

私は友の会に入って、いろいろなことがわかりました。

たとえば、友の会でぞうのへやに入って、いつもは、遠くからみていたのでよくわかりませんでしたが、近くで見たので、本当の大きさがわかりました。

それに、みんなに物をおしえる楽しさがわかりました。

そして、友の会のみんなと遊んだり、いろいろなことをおしえてもらったりしていました。

それから、木の音を聞くときは、あんまりよく聞こえませんでした。すこしわかったのがよかったです。

こども、友の会に入ろうと思いました。



ノシメトンボ（トンボ科）

ノシメトンボは、俗にクルマトンボとも呼ばれるアカトンボの仲間です。この他にも、アカトンボの仲間では、アキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネを園内で見ることができます。

さらに、トンボ好きの飼育係が、毎日昼休みに虫とりアミを持って園内を歩き回った結果、オニヤンマ、ホソミオツネトンボ、オオアオイトトンボ、オオルリボシヤンマ、コシアカキトンボ、シオヤトンボなど21種類のトンボを観察することができました。

また、ヒガシカワトンボ、ギンヤンマ、オニヤンマなどのヤゴも、園内の小川や池で観察されました。これらのヤゴは、比較的きれいな水でないとすめません。そういう場所が最近は少なくなっていますね。

これからもたくさんのトンボが見られるように、身近な自然を大切に、トンボのすめる環境を守っていきたいものです。

zoo もりおか

第4号 1993年

発行日 平成5年3月15日

編集・発行 (財)盛岡市動物公園公社

〒020 岩手県盛岡市新庄字下八木田60-18

TEL. 0196 (54) 8266

印刷所 三陽印刷株式会社